

品	一	鮮	い	は	分	は	衝	味	原		る	一	時	い	「	い	?		
を	層	明	う	あ	か	、	撃	だ	爆	私	と	部	代	「	世	の	「	平	
見	暗	に	理	あ	っ	核	を	が	ド	は	は	の	で	こ	界	不	平	和	
て	く	記	解	っ	っ	兵	受	、	ー	小	い	地	あ	と	中	い	等	と	
い	、	憶	は	て	て	器	け	幼	ム	学	い	域	る	だ	の	な	な	は	
く	少	し	し	は	い	や	た	い	と	二	き	の	と	と	ど	世	な	何	
、	し	て	て	ら	な	原	の	な	原	年	れ	話	言	思	「	界	な	だ	
胸	怖	い	た	い	な	子	を	が	爆	生	な	で	わ	う	?	あ	る	ろ	
が	か	る	。資料館	こ	か	爆	覚	ら	弾	の	い	あ	れ	。今	こ	と	。毎	日	
痛	っ	。雨	の	と	っ	が	え	も	ど	訪	だ	っ	て	。二	と	?あ	る	い	
む	た	降	こ	で	。し	う	い	は	い	れ	だ	、全	い	十	と?	い	は	「	
よ	。順	っ	と	、	か	う	。も	言	い	ら	ら	世	が	一	あ	は	こ	と	
う	路	て	は	ひ	し	も	ち	葉	表	う	う	界	、そ	世	る	は	こ	と	
な	に	い	、	ど	、	の	ろ	で	せ	か	か	で	れ	紀	い	は	「		
もの	沿	て	特	い	こ	か	ん	は	な	い	。記	平	ど	は	平	は	「		
が	っ	館	に	館	と	よ	当	い	憶	。曖	和	こ	か	和	な	私	争		
た	て	内	は	と	れ	く	時	い	は	の	。曖	あ	か	な	が	は			
く	展	は																	
	示																		

さんあった。金属で作られているであろうお
弁当箱。小学生が持っていていくような小さな水
筒。子供が遊んでいたかもしれない三輪車。
どれもこれも焼き焦げていて、かろうじて原
形をとどめているにすぎなかった。それを見
ると、何の知識もない子供の私でも、すごく
悲しくなった。他にも目にしたものがあつた
昔のドームの写真と、現在の姿の写真。現在
の姿が頭に定着していたため、あまりの変化
の違いに驚きを感じた。同時に、建物でもこ
んな風になつてしまふなら、人はどうなつて
しまふのか、考えただけでも恐ろしかった。
当時の状況もたくさん解説していた。人々
は熱さに叫び、川に入ったものの、放射線で
汚染された水によつて死んでいった。今はこ
んなに綺麗で観光客もたくさん訪れる広島に
ほんの八十年前はこんなことが起きていたな
んで、考えられなかった。だが、それが現実
である。私はそれ以来、歴史の事実から目を
背けないようにしようと思ふようになった。

ところ、私の祖父の兄は海軍兵学校に通
っていたそう。当時、海軍兵学校は倍率が
ものすごく高く、行くのが難しかったらしい
後に終戦を迎えたため、実際に兵隊として戦
地に赴くことはなかった。その後、猛勉強の
末、医者になったが、残念ながら四十九歳の
時に膵臓がんで亡くなったそう。しかし母
や祖父は、大伯父は広島に原爆が投下された
三、四日後、現地の視察に行かせられたそう
で、その時の残留放射能による二次被爆で病
気にかかったのではないかと言っていた。他
にも、祖父母からは実際の戦時中の話を聞か
せてもらったことがある。戦争体験者の人か
ら直接話を聞くことが、同じ過ちを繰り返さ
ないために重要だと思う。祖父母は、今日の
ウクライナの惨状を見るたびに自分達の子供
の頃を思い起こすと言う。
ウクライナでは理不尽な殺戮が起こってい
る。私は戦争を目のあたりにしたことがなか
ったので、その恐ろしさ、怖さがはつきりと

